□作品紹介□

一、春木光平
臨書　楷書　欧陽詢『皇甫誕碑』　半切
「顧激清風於後葉抗名節於當時者見之弘義明公諱誕字玄憲安定朝那人」
書道部に入ってやっと最初の一歩が踏み出せました。綺麗な字に憧れて楷書に挑戦しました。



二、小川薫
臨書　行書　王羲之『喪乱帖』　半切
「羲之頓首。喪亂之極。先墓再離茶」
書道は大学に入って始めたので、作品を書展に出すのは今回が初です。臨書の難しさと楽しさを味わうことができました。



三、江崎洋平
臨書　行書　趙孟頫『前後赤壁賦』　半切四連
「不知其所止飄々乎如遺世獨立羽化而登仙於是飲酒樂甚扣舷而歌之歌曰桂棹兮蘭槳擊空明兮遡流光緑渺々兮余懐望美人兮天一方客有吹洞簫者倚」
趙孟頫が仕えた元朝では中国伝統文化が軽視され、「書」も価値が認められていませんでした。そんな時代に彼は先人の書を学び、育んでいこうとしたそうです。彼が後世に受け継ごうとした書のすばらしさを少しでも学びたいと思い、今回挑戦してみました。まだまだな点もありますが、自分なりに納得のいく作品に仕上がったと思います。

四、梅野　佳奈

臨書　行書　橘逸勢『伊都内親王願文』　全紙

「暫汎俱出愛河慧柯一飛便超苦海空有二縁真俗」

躍動感あふれる感じが素敵だなと思い挑戦しました。が、予想よりはるかに難しくて、かなり苦戦しました。



五、肥後　真

臨書　行書　黄庭堅『致景道十七使君』　半切

「方為兒童嬉戲今頎然在朝班思公壽景珍不得見毎見景道尚有典刑宣州院諸公多學」

黄庭堅独特のバランス感覚を意識して制作しました。独特すぎて表現しきれなかった部分も多々ありますが、字の重点をずらすことなど今までにない感覚を味わえました。



六、小島千明

臨書　楷書　『尉遲為牛橛造像記』　全紙

「妙樂自在之処若有苦累即解脱三」

締め切り直前になって書く文字を変更したため、練習不足のままの出品となってしまいました。悔いは残りますが、いい勉強になったと思います。



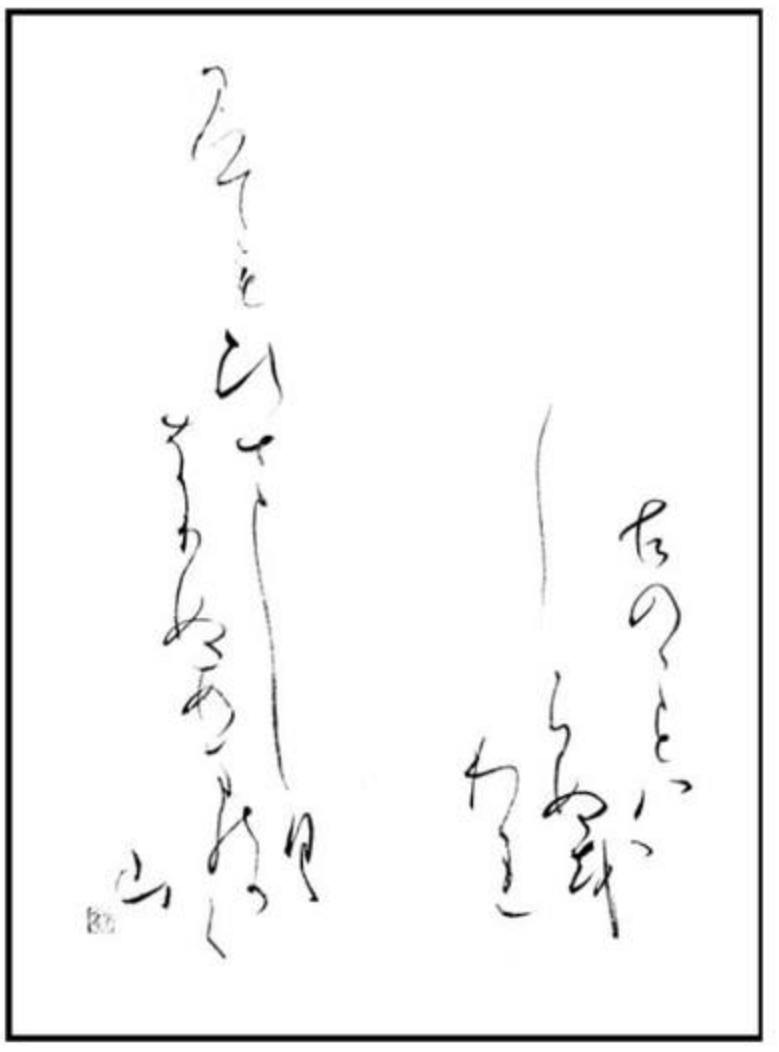
七、松永智子

創作　かな　『積日累久』　半切

「古のことは知らぬをわれ見ても　久しくなりぬ天の香具山」

（詠み人しらず『万葉集』第七巻　一〇九六）

歌の大意は、「いにしえの伝説は知らないけれど、私が見てからも久しいものになったなぁ。天の香具山は。」というものです。悠久の自然を、自分の生きた時間で感じ取る気持ちが表れています。京都に来て四年目。大文字山を思いながら書きました。



八、竹倉功祐

創作　調和体

BUMP OF CHICKEN『ノーヒットノーラン』　半切

臆病なくせに強がりで、必死に周囲の期待に応えようとする、ノーヒットノーランの打者が主役の歌です。自身のダメなところを理解しつつも、それに向き合い、果敢に挑戦し続けようとするスラッガー。自分も少しでもそんな人間に近付けたら……と思い、この歌を作品にしてみました。



九、木谷亮太
臨書　行書　米芾『米芾集』　半切
「余収張季明帖之秋気深不審気力」
今回が初めての出品です。書道に関しての知識や経験、力が全然なくて拙い作品になっております。自分の無力さを痛感したわけですが、これをきっかけとしてより一層精進したいと思っています。



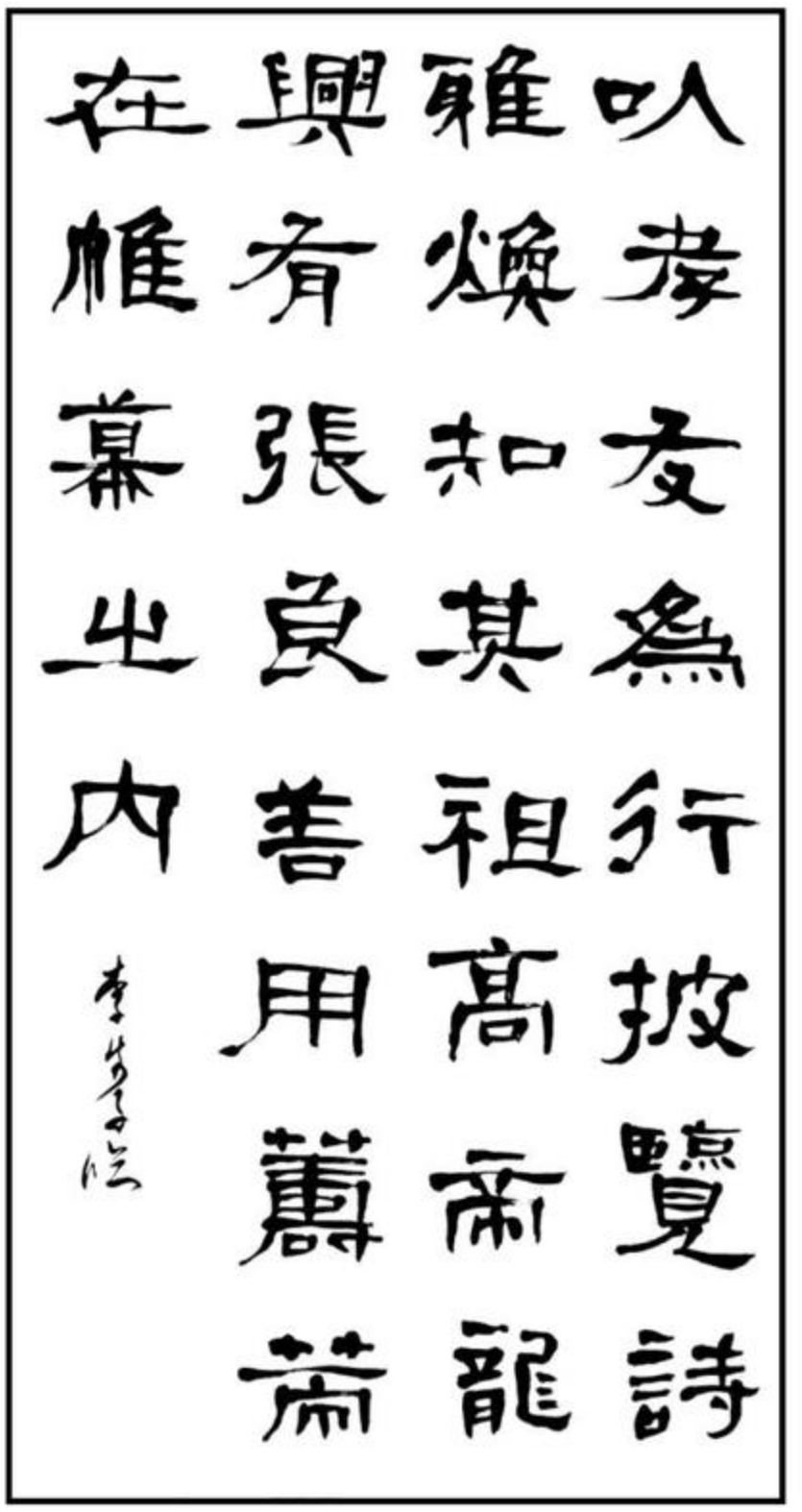
十、久田喜朗
臨書　草書　王鐸『詩巻二種』　半切
「沖虚風在御。人影近漁扉。頓悟烟奚泊。斯」
王鐸らしい丸みを帯びた線を出しつつ、全体のバランスを取るのに苦労しました。



十一、上原達也
臨書　行書　顔真卿『争坐位稿』　全紙
「謹奉書于右僕射定襄郡王郭公閣下。蓋太上」
高校生の頃より慣れ親しんできた作品です。目指す所に少し近付けたようで、それと同時に未だ果てしなく遠い距離を感じます。一生このまま歩み続けるのも、案外悪くないかもしれません。



十二、頓部李歩子
臨書　隷書　何紹基『臨張遷碑』　全紙
「以孝友爲行披覽詩雅煥知其祖高帝龍興有張良善用籌策在帷幕之内」
以前から書いてみたかった隷書に初挑戦です。まさかの右下がりや作品のまとめ方に苦労しました。山本さんと行った故宮博物館では念願の王羲之などは見られませんでしたが、隷書コレクションを見ることができ、勉強になりました。



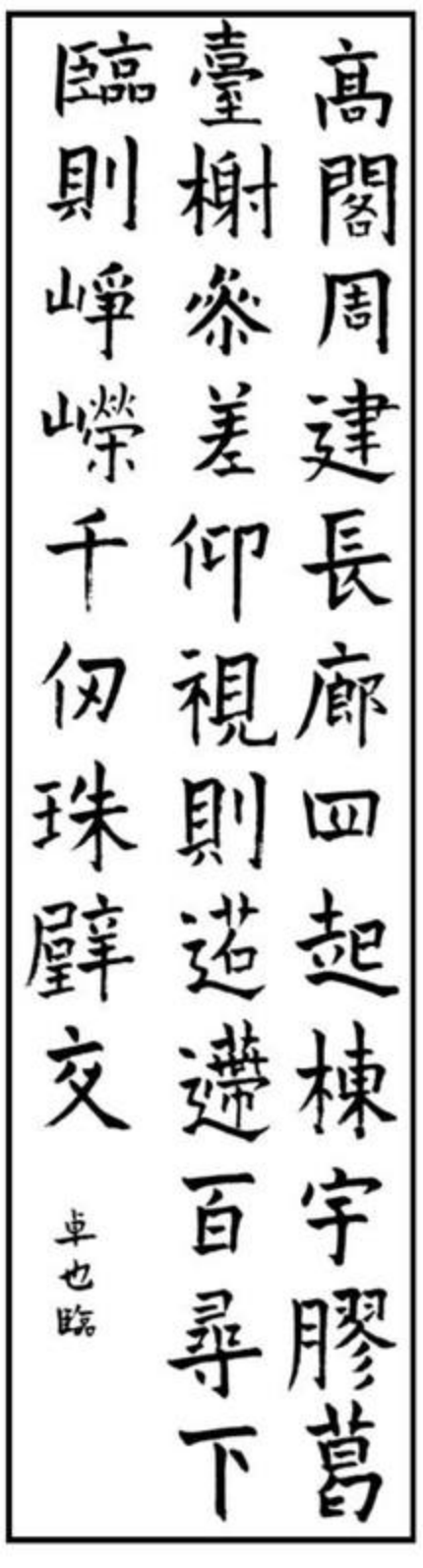
一三、西原英臣
臨書　草書　傅山『揮散一觴』　３尺×６尺
「揮散一觴　陶然自楽」
今回も傅山の臨書に挑戦しました。作品の意味は「お酒を飲んで心も体も喜びに満ち溢れている」という意味です。自分としては傅山の新しい境地を垣間見た作品だったので、今回書いてみました。



一四、岡本清二
創作　調和体　『氣心腹人己』　半切
「気は長く心は丸く腹たてず人は大きく己小さく」
高校のとき目にした言葉で、達磨禅僧の教えだそうです。書道は初の挑戦です。自分なりに気持ちをこめて書いてみましたが、なかなか思うようにかけず大変でした。



一五、和田卓也
臨書　楷書　欧陽詢『九成宮醴泉銘』　半切
「高閣周り建ち、長廊四に起こり、棟宇膠葛として、台榭参差たり。仰ぎ視れば則ち　遡たること百尋、下に臨めば則ち崢嶸たること千仞。珠壁交」
情景描写のシーンなので壮大さの表現を意識しました。それでいて九成宮の端正さや流れを意識しました。九成宮に含まれる基礎的でありながら本質的な楷書の技法は非常にためになりました。

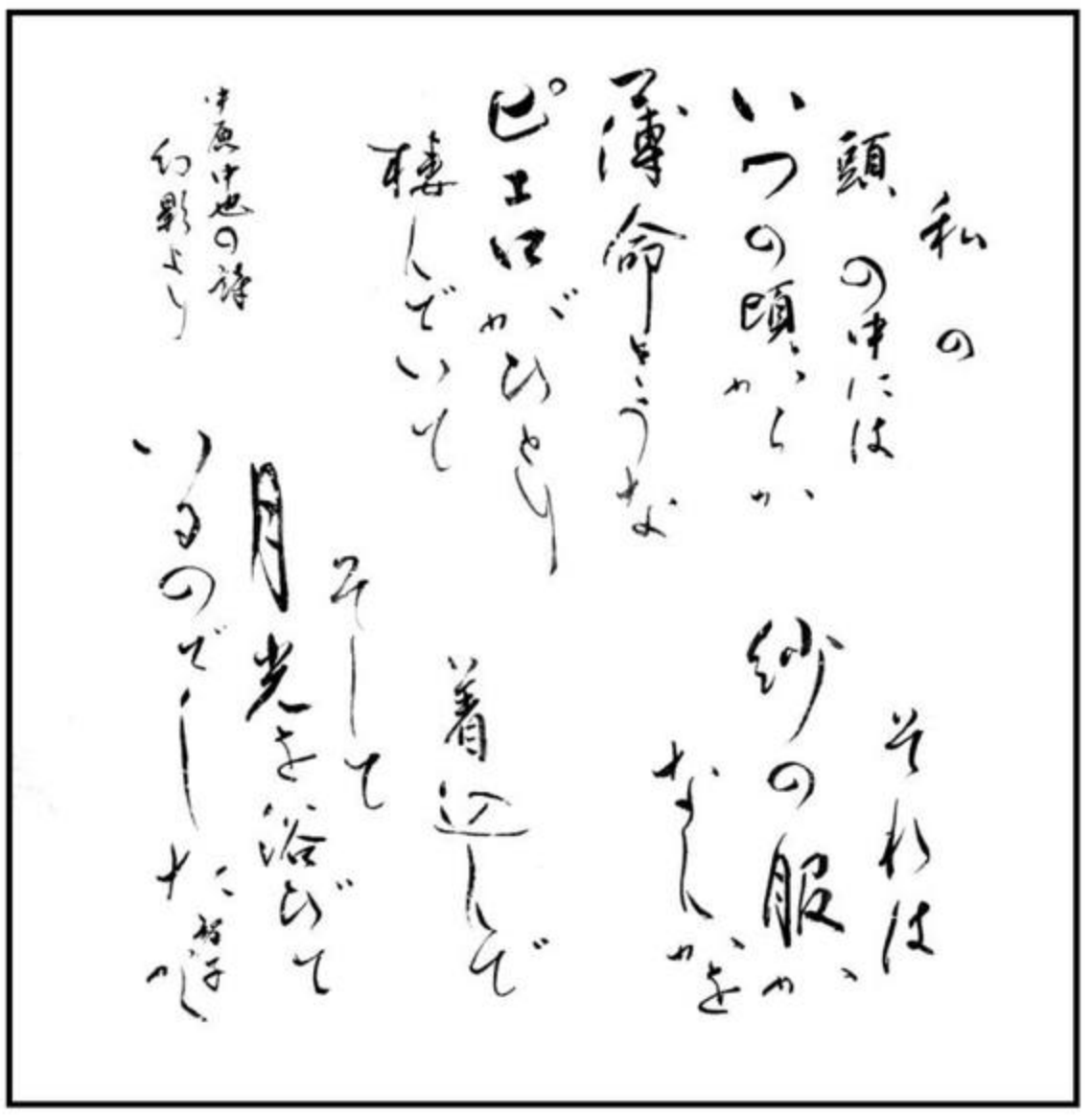


一六、松永智子

創作　調和体　『幻影』　全紙１／２

「私の頭の中には、いつの頃からか、薄命さうなピエロがひとり棲んでゐて、それは、紗の服なんかを着込んで、そして、月光を浴びてゐるのでした。」中原中也の詩『幻影』より

大学でもう一度書道を始めたのも、好きな詩を味わいたいという思いからでした。まっさらな紙に描く文字が、詩になってゆく　―まるで、音が音楽に成るこのプロセスが、私の書の楽しみです。そしてその表現で何かを伝えることができたなら、幸せです。



一七、河合直樹

創作　草書　『雄飛』　全紙

毎度恒例の青淡墨の大字書ですが、今回は本懐である二字書に挑戦しました。一般に、空間のとりかたや墨の濃淡の関係から、一字書に比して二字書は難しいとされていますが、まさにその通りでした。雄々しく飛び立つ様を感じていただければ幸いです。



一八、窪田頌　　半切

臨書　篆書　『史頌簋』　光

「令史頌徵鮇。灋友、里君、百生、帥　盩于成周。休又成叀。鮇賓。
壹吉金。」

一回生の分際で、しかも最初の作品に金文なんてものを選んでしまいました。この史頌簋という青銅器は、名前を見てわかる通り、周の史官である頌という人物によって作られました。私と奇しくも同名です。遥か三〇〇年以上前にこの器を作った同名の人間に、私は非常に親近感を覚えました。同名の人物が活躍した記録を筆で書くのは、なかなか楽しかったです。金文らしい金文を目指して書きましたが、なかなかまとめるのに苦心しました。周代後期の整い掛けた金文は、雰囲気が難しいです。



一九、中川真理子　　半切

臨書　行書　王義之『興福寺断碑』

「源之乎鵬之為鳥不飛法勵己荷公不私」

初めて半切での臨書に挑戦し，作品として半切を仕上げる難しさを実感しました。これを出発点として配置，墨継ぎなど構成についても色々と学んでいきたいです。



Calligraphic Item Specialty Store 書遊 検索

篆刻用品・書道用品・額・額装はお任せください。

書遊

http://www.syoyu-e.com/

AM.10:00－PM.6:00

奈良本店	大阪店	京都店	新潟営業所	㈱札幌アメミヤ
駐車場完備	駐車場あり	駐車場あり		姉妹店
奈良市今辻子町37	大阪市福島区福島5-14-6クレセントビル2F	下京区烏丸通五条下ル大坂町391 第10長谷ビル3F	TEL 025-374-5510 FAX 025-374-5511	札幌市中央区南一条西2丁目5南一条ビル5F
TEL0742-23-5547 FAX0742-20-2261	TEL06-6458-8808 FAX06-6456-4077	TEL075-342-4403 FAX075-342-4345		TEL011-398-9400 FAX011-398-9401

筆・墨・硯・書画用紙・色紙短冊・日本画用具

株式会社 松楳園

〒600-8075 京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル
TEL (075)351-6380(代)
FAX (075)361-8006
http://www.shoubaien.co.jp/

かな料紙・京染和紙
加工紙・画仙紙・半紙他
書道用和紙の専門店

紙の津久間

京都市下京区新町通花屋町下ル
TEL(075)371-8186(代)
FAX(075)371-8189

ANEMOPHILOS COFFE HOUSE

楳香館

TEL 075-751-1808
京都市左京区吉田下大路町15
〒606-8314

二〇、頓部李歩子
創作　行書　白居易『五言絶句』　半切
「山僧對基坐局上竹陰清映竹無人見時聞下子聲」
仮名が嫌になったわけではありません、漢字が恋しくなったんです。久しぶりに大きい紙に漢字を書いたらすっきりしました。これからもいろいろなものに手を出すと思いますが、どうぞお付き合いください。



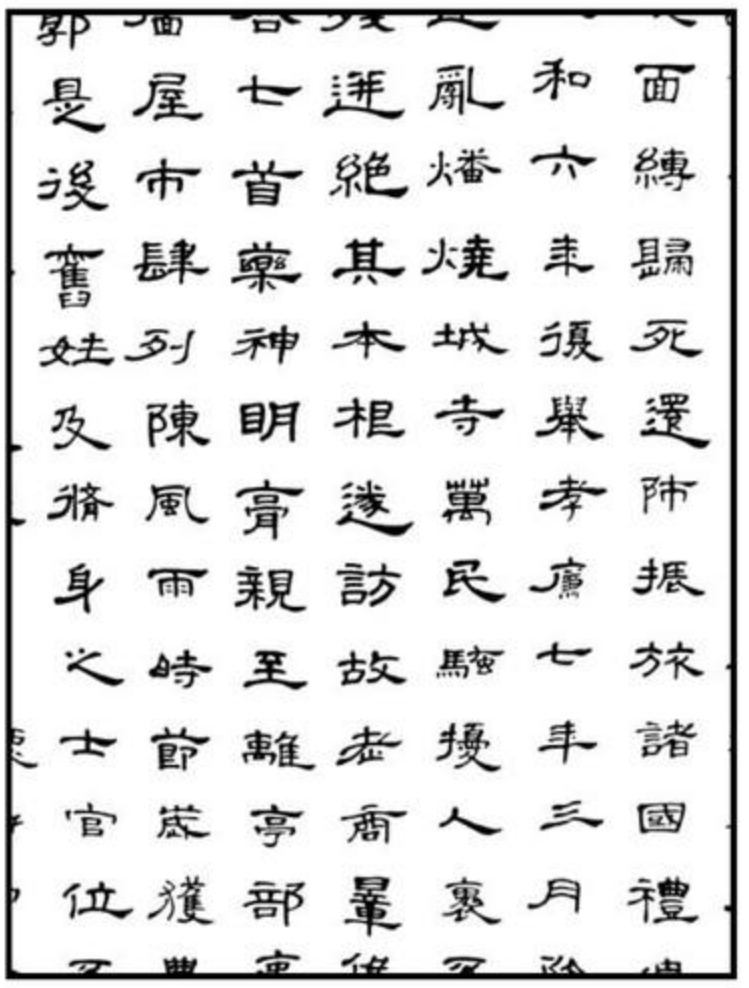
二一、吉田幸広
臨書　行書　蘭亭序　半切
「永和九年歳在癸丑暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢」
本来は初夏書展に出品する予定でしたが、諸事情により出品できなかったので今回出品しました。ご批評の程よろしくお願いします。



二二、樫岡大輔
臨書　行書　傅山　『行書七言詩軸』　聯落
「龍王社鼓閙村雩抛却残書也杖扶愁無
角抵酬花眼誰好麤糟俯竈觚」
久々に書道をするということで、以前違う作品を臨書したことのある傅山の作品の中から今回はこの作品を書いてみることにしました。奥底からエネルギーの湧き出てくるような書風は表現できなかったとしても、傅山らしい雰囲気は漂っているでしょうか…？



二三、竹倉功祐
臨書　隷書　『曹全碑』　3尺×6尺
「君諱全字景完敦煌效穀人也……（本文全八四〇文字）」
三年前に初めて作品として取り組んだのがこの曹全碑でした。それ以来いくつかの隷書作品に挑戦しましたが、自分が一番好きな字はやはり曹全碑でした。何箇所かミスもありますが、全文を書ききれたことに満足してます。



二四、河野宏明
創作　行・草書
『人之有徳慧術知者恒存乎疢疾』　2尺×8尺
「人の徳慧術知あるは恒に疢疾に存す」
「人は誰でも辛い体験をへることによって、すばらしい知恵やたくみな駆け引きを身につけていく」という意味です。この言葉を胸にこれからの人生で多々起こるであろう、艱難にめげずに生きていきたいものです。





二五、上原達也

創作　行書　『勧酒』　2尺×8尺

「勧君金屈巵　満酌不須辞　花發多風雨　人生足別離」

晩唐の詩人、于武陵の詩です。作家井伏鱒二は、最後の一節を「サヨナラダケガ人生ダ」と訳しました。いつ死ぬかもしれない人生、ならば今をどう過ごすべきか。とりあえず、今夜も旨いお酒を飲みましょう。

二六、西原英臣

創作　行書　杜甫『登樓』　70cm×270cm

「花近高樓傷客心萬方多難此登臨錦江春色來天地玉壘浮雲變古今北極朝廷終不改西山寇盜莫相侵可憐後主還祠廟日暮聊為梁父吟」

杜甫の『登樓』という漢詩を創作してみました。まだまだ未完成の作品なのでご批評していただけると幸いです。





二七、三幣剛史

臨書　隷書　楊峴『臨衡方碑軸』　2尺×8尺

「歸来洙泗。用行舍　徵拜議郎。遷大醫令京兆尹。
舊都餘化詩人詠。漢衡方碑。遅鴻殘　楊峴。」
楊峴の隷書が好きで、百回書展に続いて臨書してみました。
一味違う隷書を楽しんでください！

二八、北山聡佳

創作　楷書　『院生生活、まさに・・・』　全紙（軸装）

「正念場」

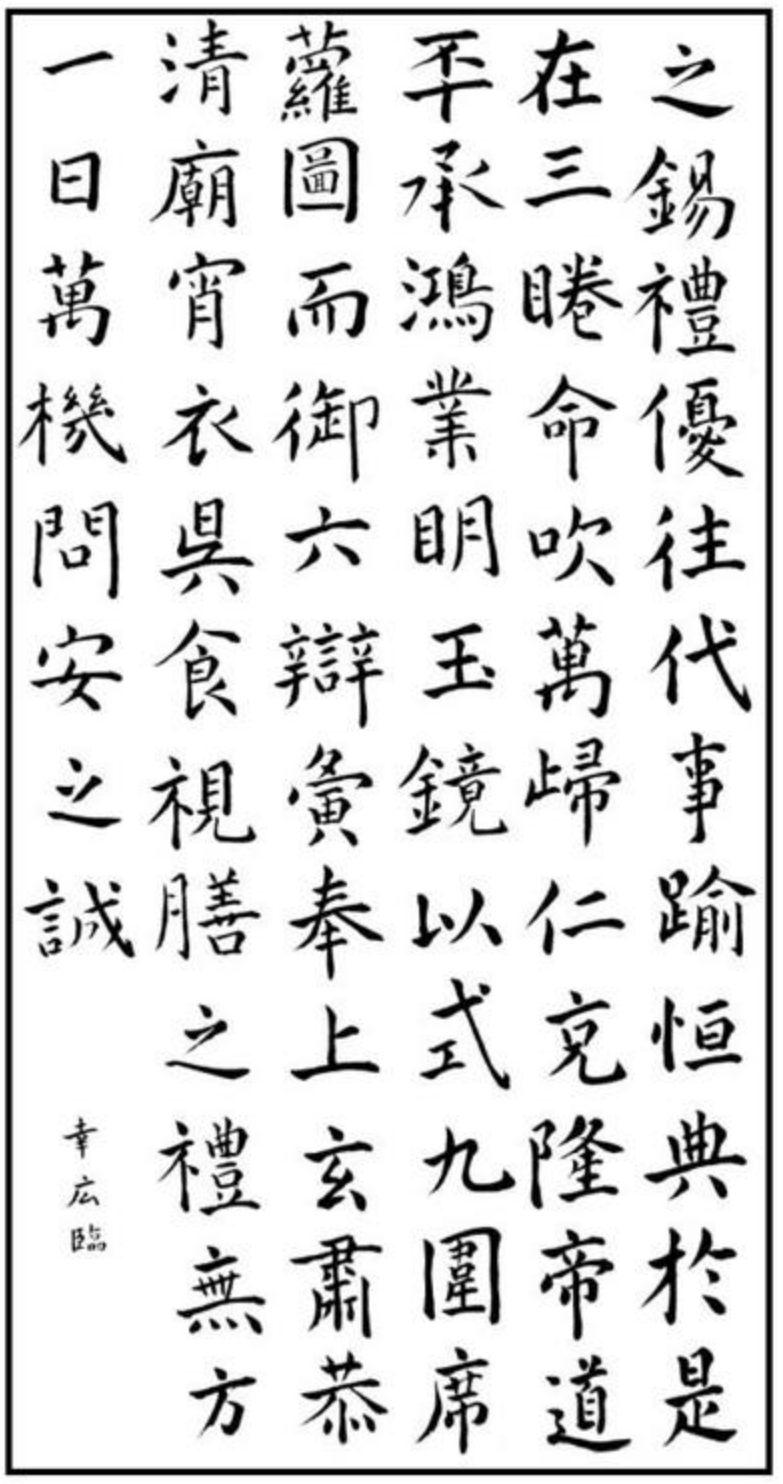
中国の北魏という時代の〝イカツイ〟楷書を元に創作しました。
専門外からここの大学院に入学してきた私は知識が乏しく、苦労することも多いですが、書道部の個性的な皆から〝やる気〟というパワーをもらって頑張っています！



二九、得能麻希
創作　かな　半切
「あをによしならの京師にさく花の匂ふがごとくいまさかりなり」
今回初めて条幅に挑戦してみました。なかなか思い通りにいかなくて、発展途上を宣言したような作品になってしまいましたが、二行目と三行目の空間に魅力を感じてもらえれば幸いです。



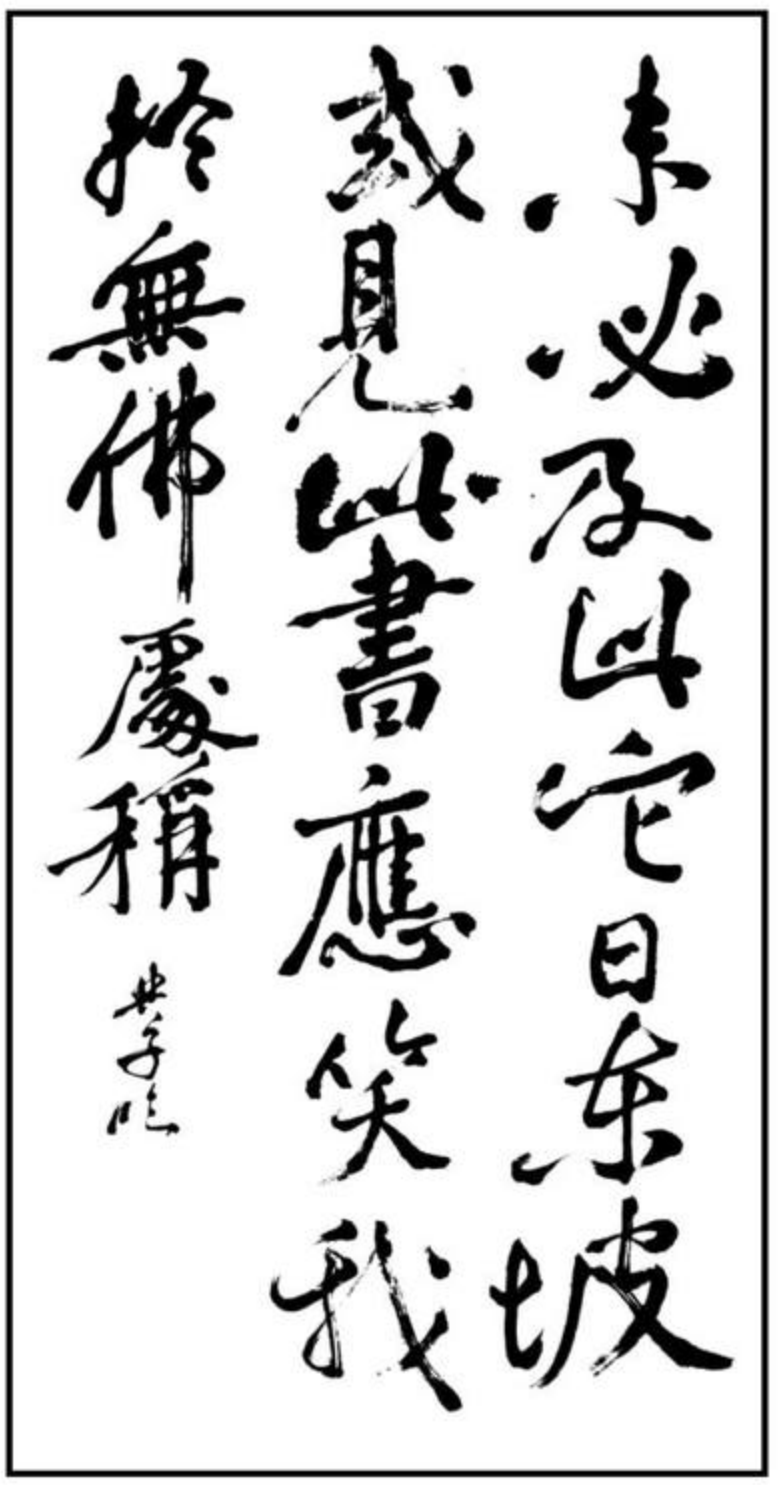
三〇、吉田幸広
臨書　楷書　『孔子廟堂碑』　全紙
「之錫禮優往代事踰恒典於是在三睠命吹萬圖而御六辯夤奉上玄肅恭清廟宵衣呉食視膳之禮無方一日萬機問安之誠」
全紙に楷書を書くと疲れます。集中力はもちろん肩がこって体力的にもしんどかったです。



三一、上野敬峰
臨書　行書　趙孟頫『前後赤壁賦』　半切
「客曰月明星稀烏鵲南飛此非曹孟徳詩」
自分が自然に書けること、楽しめることを第一に作品を作りました。
書き込みが足りず不満足な部分もありますが、書を楽しむという基本に立ち返れた作品になったと思います。



三二、山本典子
臨書　行書　黄庭堅『黄修寒食詩巻　跋文』　全紙
「未必及此。它日東坡或見此書。應笑我。於無佛處稱」
初の全紙作品です。奔放、というか豪快な字に挑戦したかったのでこれを選び、原本を見に台湾まで行きました。が、展示されていませんでした。残念です。
あまり豪快にならなかったのもダブルで残念です。



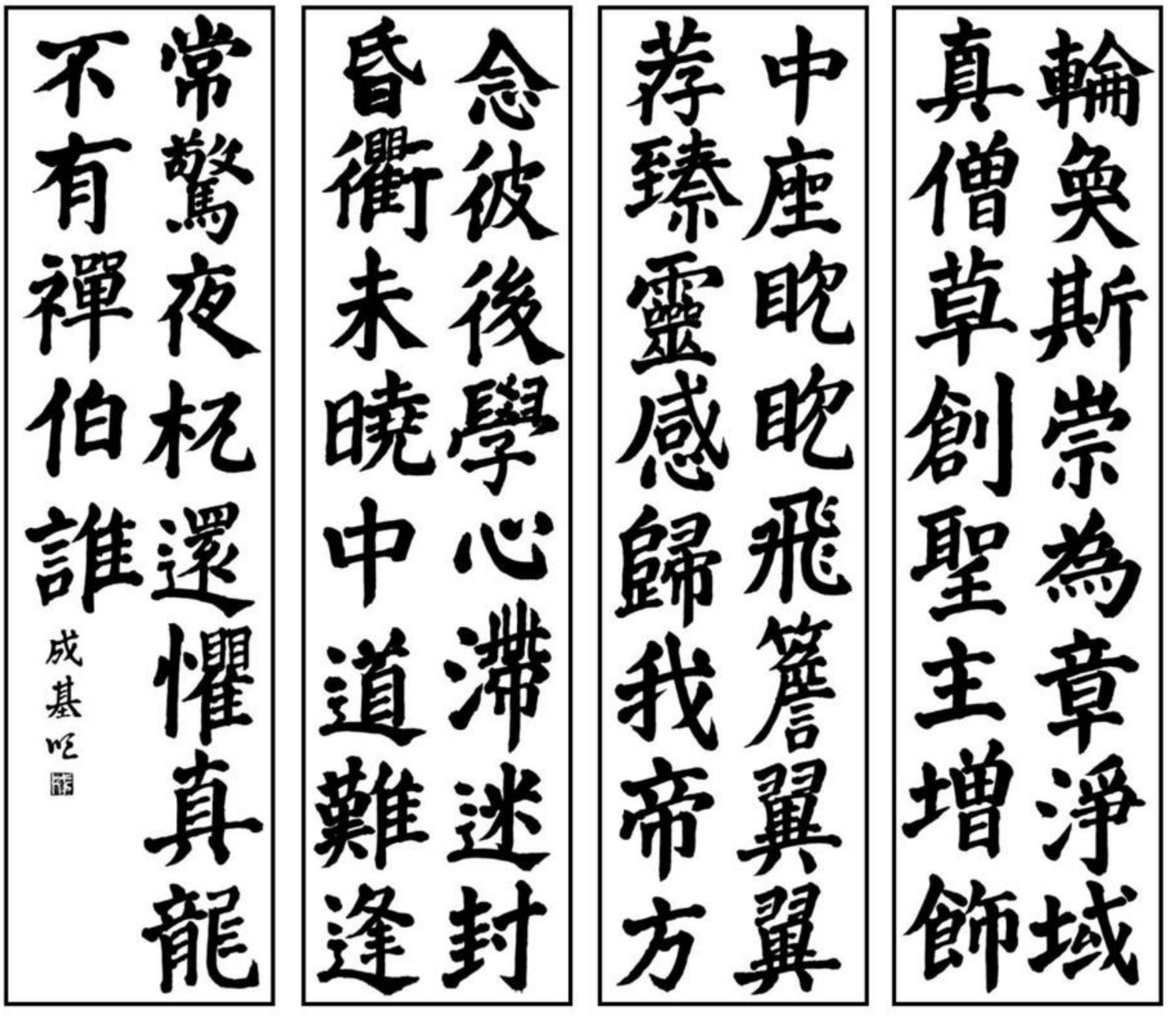
三三、春木光平
臨書　隷書　『西狭頌』　半切１／２
「教無對會之事傲外」
遊んでみました。筆が踊っていました。書いてて楽しかったぁ
楽しそうな字に見えますか？笑



三四、河野宏明
創作　行書　『山青くして楊柳の春』　半切
「山青くして楊柳の春」
もっと自分の癖を出して楽しみながら書きたかったのですが、
までの作品がずっとそうだったので今回は極力自分の癖を出さ
に、万人受けしそうな素直な書風で仕上げました。



三五、横山成基
臨書　楷書　顔真卿『多宝塔碑』　半切四連
「輪奐斯崇。爲章淨域。眞儈草創。聖主增飾。
中座眈眈。飛簷翼翼。荐臻靈感。歸我帝方。
念彼後學。心滯迷封。昏衢未曉。中道難逢。
常驚夜　。還懼眞龍。不有禪伯。誰」
前回の書展は色紙作品でした。今回は半切四連に挑戦しま
した。四連は予想以上に難しく、各行のバランスをとりつつ、
全体の構成も失わないようにするのに苦労しました。多宝塔碑
特有の楷書の特徴を出すのも難しかったです。



三六、水谷慈

臨書　草書　王鐸『草書七律五首巻』　全紙

「張抱一公祖招集湖亭有酒滄池対烟丘相招者誰任意遊晋人唐人曾幾度泉水」

初めて全紙にチャレンジしました。羊毛の筆に濃墨を使っています。墨をつけるときには多めにつけて勢いのある作品になるようにすることと、せっかくの羊毛なので、綺麗なかすれが出るようにすることを頑張ってみました。



三七、樫岡大輔

臨書　隷書　『王福厂　隷書千字文』　半切二幅

「宮殿盤鬱　樓觀飛驚」

王福厂の隷書から形のおもしろそうな四字を臨書してみました。やっつけ的な感も否定できませんが、書いていて楽しかったです。





✦　合作　✦

＊『紅葉』

近頃では風もすっかり秋めいてきました。秋真っ盛りといいたい所ですが、京都のもみじには未だに紅葉の兆しが見られません。

というわけで、部員全員の手形で紅葉を表現してみました。一足早いですが、どうぞお楽しみ下さい。

✦　賛助作品　✦

＊　講師　寺本蒼玄先生

創作　行書

「名月を見ながら酒を朋と酌み交わす」そんな気持ちを大胆に表現した作品です。



This book was
made by the LeME